

葉色の淡いほ場は出穂直前の追加穂肥で品質低下防止

1 生育概況(コシヒカリ 7/29現在)

現在の生育(指標値比)

平坦地	草丈:長い (112%)	茎数:並 (101%)	葉数:やや早い (+0.5)	葉色:やや淡い (SPAD値 -1.0)
中山間地	草丈:長い (111%)	茎数:やや多い (107%)	葉数:並 (+0.2)	葉色:並 (SPAD値 +0.6)

- 「コシヒカリ」の葉色は平坦地や田植の早いほ場でやや淡くなっており、穂肥施用後も葉色が淡いままのほ場もみられ、今後、高温下での栄養凋落が懸念されます。
- 生育が遅れたほ場や中山間地では指標値並の葉色となっています。

2 調査結果 (普及センター、JA調査ほ)

(1)コシヒカリ

場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
平坦地	今熊(浦川原)	16	5/12	96	99%	113%	425	株当 23.6	125%	115%	13.9	+0.6	+0.9	31.8	-6.3	-0.7	8/1 出穂見込み
	飯室(浦川原)	13	5/8	94	84%	111%	374	株当 23.4	91%	101%	13.6	-0.2	+0.6	29.7	-8.0	-2.8	8/1 出穂見込み
	宮口(牧)	71	5/19	94	94%	111%	318	株当 17.1	80%	86%	13.1	-0.7	+0.1	32.9	-5.8	0.4	
	平均			95	92%	112%	372	株当 21.4	97%	101%	13.5	-0.1	+0.5	31.5	-6.7	-1.0	
中山間地	安塚(安塚)	80	5/8	100	93%	118%	396	株当 23.3	99%	107%	13.1	-0.3	+0.1	31.6	-7.7	-0.9	7/28出穂期
	和田(安塚)	133	5/15	89	95%	105%	349	株当 16.8	100%	94%	13.8	+0.2	+0.8	33.3	+0.7	+0.8	8/1 出穂見込み
	大島(大島)	152	5/15	96	87%	113%	396	株当 20.1	79%	107%	13.0	-0.5	±0	31.8	-3.8	-0.7	8/1 出穂見込み
	菖蒲(大島)	337	5/20	91	98%	107%	450	株当 23.8	102%	122%	13.4	-0.6	+0.4	30.9	-2.1	-1.6	
	高尾(牧)	352	5/23	92	95%	108%	388	株当 19.7	90%	105%	12.9	+0.3	-0.1	37.8	-1.9	+5.3	全量基肥
平均			94	94%	111%	396	株当 20.7	93%	107%	13.2	-0.2	+0.2	33.1	-2.9	+0.6		

(2)つきあかり

場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
平坦地	長走(浦川原)	19	5/7	99	93%	122%	390	株当 21.4	127%	115%	-	-	-	36.7	-6.0	-3.3	7/21 出穂期
	宮口(牧)	57	5/17	111	102%	137%	313	株当 17.1	108%	92%	12.3	-1.1	-0.7	39.6	-1.0	-0.4	7/26 出穂期
	平均			105	97%	130%	352	株当 19.3	118%	104%	12.3	-0.8	-0.7	38.2	-3.5	-1.8	
中山間地	田麦(大島)	310	5/15	96	-	137%	467	株当 25.5	-	146%	13.0	-	±0	41.0	-	+1.0	全量基肥
	高尾(牧)	285	5/21	98	96%	140%	370	株当 18.3	97%	116%	12.6	-0.8	-0.4	41.4	-1.7	+1.4	全量基肥
	平均			97	95%	139%	419	株当 21.9	110%	131%	12.8	-0.6	-0.2	41.2	-1.9	+1.2	

3 今後の管理のポイント

- 「コシヒカリ」の出穂は平年より2日程度早く、前年より3日程度早い見込みです。
- 2回目の穂肥を施用していない場合は確実に施用してください。
- 出穂期までに葉色が下記のめやすを下回る場合は、栄養凋落が懸念されることから、品質を維持するために追加穂肥を施用してください。
(出穂期3日前の葉色がSPAD値で31以下、葉色板で4未満の場合、窒素成分で出穂期3日前に1.0kg/10a以内を施用)
- 全量基肥肥料を使用した場合でも葉色が低下し、出穂期の葉色がSPAD値で32~33、葉色板で4.4を下回ると予想される場合には、追加穂肥を実施する。
- 出穂の12日前頃から出穂・開花期頃は最も水が必要な時期です。ほ場の水分状態に応じたこまめな水管理で稲体の活力低下や下葉の枯れ上りを防いでください。
- 出穂後は飽水管理を継続し、土が湿っていても溝や足跡に水が無い場合は、直ちにかん水しましょう。
- 異常高温・フェーン時は速やかに湛水し、稲体から急激な蒸散による障害を防止しましょう。
- 病害虫発生予察調査でカメムシ類が多く確認されています。イネ科雑草が結実しない3週間程度の間隔で農道・畦畔の草刈りを行い、本田防除も徹底しましょう。